



「木曾悠久の森」設定10周年

中部森林管理局 計画課

はじめに

「木曾悠久の森」は、ヒノキ・サワラ等の木曾五木を含む天然の温帯性針葉樹林の保存・復元を目的として、中部森林管理局が平成26年に木曾地方の国有林に設定した森林です。

このような天然林は、世界的にも希少で

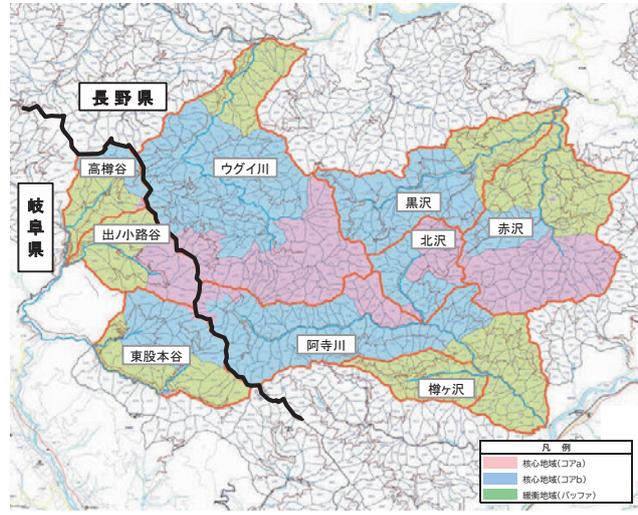
貴重なものであり、令和6年度には、木曾悠久の森の設定10周年を迎えました。ここでは、これまでのあゆみと取組についてご紹介します。

木曾地方の森林の歴史と「木曾悠久の森」の設定

木曾地方は、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、大規模な森林伐採が興地ま

「木曾悠久の森」の区域及びゾーニング

木曾悠久の森の概要
 長野県木曾郡上松町、王滝村、大桑村、岐阜県中津川市に至る国有林に設定しており、その面積は16,579ha（東京ディズニーランド約340個分）に及びます。



凡例
 赤 核心地域(コアa)
 青 核心地域(コアb)
 緑 緩衝地域(バッファ)

核心地域(コアa)：ヒノキ等の天然林がまとまって現存し、厳格に保存しようとする地域(3,908ha 24%)
 核心地域(コアb)：人工林が多くあり、コアaの地域と同様の植生に復元しようとする地域(7,163ha 43%)
 緩衝地域(バッファ)：区域外との調整機能を持たせる地域(5,508ha 33%)の3つに区分しています。

管内概要

- 所在地** 長野県長野市大字栗田715番地5
- 区域面積** 3,360,354ha
 うち森林面積 2,429,793ha
 うち国有林面積 654,822ha
- 関係自治体** 富山県、長野県、岐阜県、愛知県

中部森林管理局は、富山県、長野県、岐阜県、愛知県の4県内の国有林を管理経営しています。

管内の国有林は、日本アルプスに代表される山岳地帯を有することもあり、標高差が大きく、地形も複雑なことから自然的条件は変化に富みます。約半数がナラ類、カンバ類、ブナ科などの広葉樹やモミ、ツガなどの針葉樹からなる天然林で、約3割がカラマツ、ヒノキなどの人工林、残りの約2割は高山帯の岩石地などで占められています。

江戸時代より名をはせる「木曾ヒノキ」を有する木曾地域をはじめとして、木と人との長い歴史があり、人工林においては間伐などの森林整備を積極的に行う一方、広葉樹二次林の活用を検討するなど、多様な森林づくりに取り組んでいます。



で進んだことにより、樹木が伐り尽くされた「尾山」状態になりました。

尾張藩は、山林を全て藩所有の「御山」としたうえで、1665年に平時の伐採等を禁じた「留山」などの区域を設定することで、木曾五木（ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ）の伐採を禁止しました。これらの措置により、木曾五木を主体とする現在の森林が形成されたことで、良質な木材の産地として歴史的・文化的に貴重な社寺仏閣等の維持や地域の木材産業の継承・振興に貢献してきました。

江戸時代以降に成林した森林とはいえ、このような天然のヒノキ・サワラ等の温帯性針葉樹がまとまって存在する地域を厳正に保存し、周辺の人工林を天然林に誘導し温帯性針葉樹林を復元するため、中部森林管理局は、平成26年3月に長野県と岐阜県の県境を跨いだ国有林を「木曾悠久の森」に設定しました。

「木曾悠久の森」の取組

復元の具体的な方針を定めるために、中部森林管理局は学識経験者や林業・木材産業の関係者、関係地方自治体の長等で構成する「木曾悠久の森管理委員会」において、カラマツやヒノキ等の人工林の天然林化や超長期にわたるモニタリングなどの時間をかけて取り組むべきものと、森林の取扱い方法、特殊用材の需要・要望があった場合の対応などの速やかに取り組むべきものとを整理しながら、超長期にわたるプロジェクト

クトとして計画的に進めています。

令和7年6月には、伊勢神宮式年遷宮の行事として「御杣始祭」と「裏木曾御用材伐採式」の開催が予定されています。これらの祭事は「木曾悠久の森」の区域内で執り行われるため、御用材の伐採計画案について管理委員会の意見を聴いた上で、供給を決定しました。

また、「木曾悠久の森」の設定10周年を契機として、令和7年2月20日に長野県上松町において「木曾悠久の森」設定10周年記念シンポジウムを開催しました。地域住民や地元高校生・大学生、林業関係者な



管理委員による御用材現地確認



木曾悠久の森

約200名にご参加いただき、(公財)日本自然保護協会参与の横山隆一氏及び神宮司庁営林部長の松永彦次氏による基調講演や、「木曾悠久の森」が目指すべき姿をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。



シンポジウム会場

シンポジウムの模様は、こちらでご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=8hJj30pH7zc>



おわりに

温帯性針葉樹林の復元は、数百年をかけて進めていくものであり、そのような長期の時間軸からすれば、10周年を迎えた現在でも、取組はようやくスタートラインに立ったところと言えます。今後も地域の関係者と共に、各種取組を着実に進めてまいります。